

ふれあい



日本医療機能評価機構認定病院

医療法人社団 豊美会 田代台病院 ・精神科・神経内科・内科

発行責任者：院長 河野佳宣 〒754-0122 山口県美祿市美東町真名2941番地 TEL 08396-5-0301 FAX 08396-5-0861 <http://tashirodai-hospital.or.jp>

病院理念

心や生活機能に障害をかかえるお年寄りの治療の為に、
職員一同が、家族や地域の方々と連携しながら、
医療、看護、介護や啓蒙を総合的に提供していきます。

看護理念

「和」の精神のもと、患者・家族・地域の皆様の
期待に応えられる看護を提供します。

日本医療機能評価機構
認定第 JC1735 号

田代台病院は、よりよい医療を提供
していくために、日本医療機能評価
機構の認定を取得しています。

私の処方箋

副院長 工藤 良二



今回は薬についての話ということで、私見を述べたいと思います。

私の治療の基本はそれまでの生活を続けながら治療をしていくということです。したがって治療の中心は薬を飲むということになります。入院治療はできるだけ避けるべきです。その理由は違った環境での治療がその人にどれだけのストレスを与えるかを考えれば当然だと思います。

ここでは薬の中でも抗うつ剤の認知症患者さんへの必要性を述べたいと思います。認知症と抗うつ剤、疑問に思われる方も多いかも知れませんが少し説明します。

認知症の方が生活に大きく支障を来すものとして一般的に周辺症状というものがあります（介護では問題行動と呼ぶこともある）。周辺症状としてせん妄・徘徊・被害妄想などが目立つものですが、抗精神病薬の一時的な使用により治まることがほとんどです。見逃されやすい症状として「抑うつ～意欲低下」があります。これは高齢者の自殺の増加とも関連し、さらには本人にとって最も苦痛なものです。これを治療せずして何を治す、と思ってしまう。

さて認知症を含む高齢者の抗うつ剤の使用に関しては少し工夫が必要です。一般的に「うつ」と呼ばれる状態では脳内のノルアドレナリン神経系とセロトニン神経系の機能低下があるとされ、その機能を改善するのが抗うつ剤ですが、高齢者ではセロトニン神経系の感受性が低下しており、主としてセロトニン神経系に作用する抗うつ剤では症状は改善しません。ノルアドレナリン神経系に作用する抗うつ剤を選び服用することで意欲が出てきて今迄通りの明るい生活が可能になります。

さてどの薬剤を選択するか、医者としての技量が問われるところです。

最後にどのような治療をすれば良いかは全て患者さんが教えてくれる、それが私の治療姿勢です、すなわち先生は患者さん自身なのです。

精神療養病棟（東病棟 1 階・2 階）



「なじみの関係」を大切に 看護・介護を行っています



◇精神療養病棟とは

長期的な治療や療養が必要で、日常生活を行う上で支障があり、生活を支える必要がある精神障害の患者さんが入院されている病棟です。



つまり治療より日常生活を重視し、家庭や施設等、地域移行を目標として、精神科作業療法（集団・個別）を行い、精神安定と生活能力の維持・向上に努めています。



また、平成15年7月より開設された当院の精神療養病棟の特徴として「ユニットケア」の考え方を取り入れた病棟運営を行い「田代台病院独自のユニットケア的看護・介護を展開することにより、より家庭的な雰囲気の中で患者さんの安全を確保しつつ、寄り添う看護・介護を大切にする」ことを理念にしています。



◇ユニットケアとは

患者さん一人一人の個性を大切にし、「なじみの関係」作りを目指して、患者さんの立場で療養生活を考える看護・介護方法です。患者さんの気持ちを知り、願いをかなえ、寄り添い、より良い関係と環境をつくることを基本としています。



ユニットケアでは、なじみの関係を作っていく為に、各担当の職員が同じ患者さんと関わるようにしています。

◇精神科作業療法とは

「家庭・社会復帰を目標に精神安定と生活リズムを整えること」「社会との繋がりを持つこと」を大切にしています。そのために調理や買い物、ドライブなど病院内外の人との交流や外部の環境に触れる機会をもつように努めています。また、楽しみながら行えるカラオケやゲーム、体操、散歩なども取り入れています。



◇これからも

12年前に掲げた精神療養病棟の理念を大切にして、少しでも患者さんが楽しく、有意義な療養生活が過ごせるように、また患者さんの立場で生活を考え、話し合い、「なじみの関係」をより深めていけるように努めていきます。

認知症
ケアのポイント今回の
テーマ

【家庭で多い排泄トラブル】

田代台病院 精神科看護・介護勉強会 認知症部会

「排泄」テーマの最終回です。当院にもご家族から排泄に関する相談が多く寄せられます。その中から特に多い相談内容について、認知症の方（本人）の気持ちも踏まえながら原因や対応をご紹介します。

Ⅰ. 汚れたもの（パンツやオムツ）を隠してしまう

1) 原因

- ・プライドがある
 - └ 見つかりたくない
 - └ 恥ずかしい
 - └ 怒られるかもしれない
- ・自分で洗濯しようとして片づけて忘れる
- ・家族（特に嫁）には言いづらい



2) 対応

- ・専用の洗濯カゴを用意する（中が見えにくいものなど）
- ・本人が居ない時に確認をする
- ・見つけても、怒らずに関わる
- ・汚してしまう原因に対応する（ふれあい2015. 2 Vol6 内容参照）



Ⅱ. トイレや周辺を排泄物で汚してしまう

1) 原因

- ・拭くものがわからず、手で触ってしまう
- ・自分でどうにか片づけよう、きれいにしようとしている
- ・排泄物と理解することが出来ない



2) 対応

- ・トイレットペーパー以外に昔ながらのちり紙を用意しておく
- ・ちり紙を目につきやすく取りやすい場所に置く
- ・本人なりに片づけようとした部分は認め、怒らずに関わる
- ・本人の排泄習慣などを把握する（ふれあい2015. 2 Vol6 内容参照）



排泄の問題は介護する側にとって負担の大きいものです。しかし、本人にとって「排泄を失敗する」、「誰かの世話になる」ということはとても辛いことです。本人の気持ちを理解しながら、また家族も抱え込まずに当院や地域包括支援センターなどに相談し、一緒に考えて関わっていくことが大切です。



デイケア なごみ通信

～季節を楽しむ 秋刀魚の会～

「〇〇の秋」にはいろいろありますが、なごみでは秋刀魚を焼いて「食欲の秋」を楽しみました。

「七輪と炭で焼きたい!」という事で、男性陣が煙にまみれて火を起こし、女性陣は大根すりを作りながら「手まですらんことよ～」と大笑い。準備が整い、秋刀魚が登場すると「まあ～立派じゃね!」「今年は一匹がなんぼかね?」

と主婦目線での一言も。焼ける香ばしい匂いに「よだれが出るね」と皆さんの表情がほころびます。焼き上がると大根を添えて、骨付きのまま「いただきます!」。普段はおかずを小さくしている方も、お箸で器用に身を剥がし、あっという間にお皿には骨だけが綺麗に残りました。「美味しかったね!」「炭は昔を思い出すね～」と、皆さん大満足の様子でした。



匂い、見た目などの五感や自分でも準備に参加するなど、食事への意識を高めることで、普段よりも上手に食べたり、満足感のある食事ができる場合もあります。「食べやすさ」も大切ですが、「箸がすすむ」食事への心配りもとても重要なポイントです。

作業療法士 上田 貴弘



ホームページを 開設しました

このたび、「田代台病院ホームページ」を開設しました。

「受診（外来・入院）に関するご案内」、「面会に関するQ&A」、「当院の紹介」、「院内行事・催しのご案内」、「求人情報」などがご覧いただけます。

アドレスは、<http://tashirodai-hospital.or.jp> です。

みなさん、ぜひ一度のぞいてみて下さい。（スマートフォンにも対応しています）

編集 後記

田代台病院のホームページもようやく出来上がりました。地域広報誌「ふれあい」もバックナンバーとして閲覧できるようになっています。「ふれあい」とホームページを使って地域に向けての情報発信を今後も充実していきたいと思っています。ホームページを閲覧いただいたご感想もぜひお寄せください。（梅本）